

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	免疫性血小板減少症患者におけるヘリコバクター・ピロリ菌感染率の検討
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	輸血・細胞治療部 部長 山之内 純
研究期間	研究機関の長の許可日 ～ 2026年3月31日
対象となる方	2005年1月から2024年12月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち血液内科でヘリコバクター・ピロリ菌の検査を受けられた患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、疾患名、血液検査データ、治療状況 等
研究の概要 (目的・方法)	免疫性血小板減少症 (ITP) にヘリコバクター・ピロリ菌 (H. pylori) が感染している場合、除菌することで血小板数が増加する患者さんが約60%存在すると本邦で報告されています。そのため、成人ITPの治療の流れは、「ITPと診断された場合、まずピロリ菌感染の有無について検討する。」と成人ITP治療参照ガイドに記載されています。一方で、胃がんの最大のリスク要因であるH. pylori感染は若年層で著しく低下しており、本邦の胃がんの罹患率は近年大きく低下していると報告されています。ITP患者においてもH. pylori感染率が低下しているのであれば、ITP罹患率も低下しているのではないかと考え、治療前に若年者ではH. pylori検査をする必要がないのではないかと考え、まずは当院におけるH. pylori感染率の推移について検討することを目的としました。そこで、愛媛大学医学部附属病院血液内科を受診された患者さん (ITPの患者さんも含まれます) でH. pylori感染の有無を検査された方のカルテを調査させていただき、当院におけるITP患者さんにおけるH. pylori感染率の推移について当院血液内科受診患者におけるH. pylori感染率の推移と比較して解析する予定です。

個人情報保護 について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病院輸血・細胞治療部 山之内純 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5296